



Japan Association for Infant Mental Health

日本乳幼児精神保健学会

NEWS LETTER

発行者 日本乳幼児精神保健学会 会長 渡邊久子

8号

2024年9月24日

2024年度一般社団法人 日本乳幼児精神保健学会 第4回 学術集会に向けて



大会長 犬飼 和久
いぬかい小児科

この度第4回学術集会を浜松の地で開催させていただくことになりました。

2006年(平成16年)の第10回FOUR WINDS(日本乳幼児精神保健研修研究会)全国大会から18年ぶりの開催となります。

赤ちゃん和家人の健やかな育ちを目指し、赤ちゃん和家人を支えることを意図して、母子保健に携わる全ての方々が職種を超えて集い、赤ちゃんの世界の研究や日本各地での実践報告から学び合い且つ交流を図る事を目的に1997年に第1回FOUR WINDS全国大会が高知市で開催され、2020年日本乳幼児精神保健学会と名称変更して現在に至っています。

子どもの虐待事例は減少せず、子どもを取り巻く環境は悪化の一途をたどり、神経発達症もどき、不登校、引きこもり、拒食症など子どもの心の苦しみ、悩みがもたらす事象も増加しています。これらに対する対処・治療法を論じられる事は多いのですが、原因、予防について言及されることは依然少ないのが現状です。

現場の我々が為すべきことのひとつとして、予防的観点からお腹の中の赤ちゃんや妊婦さんを、周産期の時期から見守ることで。

今回のメインテーマは「妊娠、出産から始まる親子への寄り添い」として、サブテーマ「子どもがかわいいと思える支援/出会った時を大切に」としました。乳幼児期のみならず周産期からの親子関係に注目したプログラムを作成し、分娩を取り扱う医療関係者を含め周産期医療に関心ある方々にも声がけしていきます。今回初めての試みとして2会場で同時進行の発表となりますので、後日発表の一部をオンデマンドで視聴できるよう準備しております。10月12～13日浜松で皆様にお目にかかれることを楽しみにしています。

第4回全国学会学術集会 in 浜松

◆ 大会テーマ **妊娠、出産から始まる親子への寄り添い**
～子どもがかわいいと思える支援/出会った時を大切に～

日時 2024年10月12日(土)、13日(日)

会場 浜松市福祉交流センター(静岡県浜松市)

申込み 下記URL または右のQRコードからお申し込みください。
<http://jaimh4-hamamatsu.peatix.com>

アクセスMAP



世界乳幼児精神保健学会 (WAIMH) タンペレ大会

タンペレ大会に向けた国際委員会の取り組み

2024年6月5日から7日、フィンランドのタンペレで世界乳幼児精神保健学会WAIMHの臨時国際学会が開かれました。COVID-19のためにずれた隔年開催を戻すため、臨時国際学会を開催すると公表されたのは、昨年のダブリン大会の後、つまりタンペレ大会から1年を切っていました。

日本からの参加者への力になればとJAIMH国際委員会は以下を準備しました。ツアー企画(15名参加)、メーリングリスト作成(12名登録)、LINEグループ作成(20名登録)、zoom meeting、現地での日本人顔合わせ、日本人発表者リストの作成です。今回初めてzoom meetingを開きました。

大会前に2回行い、それぞれ12名、13名の方が参加されました。事前に顔を合わせ、自己紹介や発表内容の紹介、旅情報の交換ができ、空港で会ったすぐから親しくお話することができたと好評を得ました。大会後も2回行い、それぞれ7名、9名の方とタンペレ大会で得たこと、タンペレの街の思い出など語り合うことができました。

WAIMHで世界の動向に直接触れ、日本の現場でも役立てていただき、子どもや養育者の笑顔がもっと増えることを願っています。

川崎市南部地域療育センター 慶応大学小児科
香取 奈穂

世界乳幼児精神保健学会(WAIMH)タンペレ大会に参加して

世界的な新型コロナウイルスによる流行で、オンライン開催されていた本学会も、通常の開催に戻すため、暫定で2024年6月にフィンランド タンペレ市で開催されました。

参加に当たっては、JAIMHの国際委員会の理事の皆さんが、ツアー企画や、ZOOM交流会を企画してくださり、初めての参加者でも心配なく大会に参加できるよう支援していただきました。現地での旅行にまつわるトラブルはあったものの、大会自体の参加はスムーズでした。15名のツアーの他、国内外の大学の日本人研究者や学生も参加していました。

ムーミン美術館が併設された会場は、講演等、ポスター発表、ランチ・ティーブレイクも同じフロアで行われていましたので、どこにいても、参加者同士の議論が聞こえ、女性の活躍も目に見えるもので活気のある大会でした。

フィンランドでの乳幼児への保育現場の取り組みや妊娠期からのメンタル支援、先住民族の現状と課題、これからの乳幼児精神保健の方向性等、

講演・シンポジウム・プレコンgresが行われたほか、学術・臨床の分野でそれぞれ70本以上のポスター発表がありました。学術分野の最優秀賞の候補に日本の発表が残り、また、バングラデシュでのロヒンギャ難民の子どもへの支援の発表が臨床ポスターの最優秀賞を受賞し、アジアの活動が目ざされていました。また、日本のブース2つにも、多くの人が訪れて意見交換等していました。

次回2026年10月には、カナダのトロントで4000人規模の大会が開催される予定です。カナダの紅葉と滝を堪能しながらの大会参加もよいかもしれません。

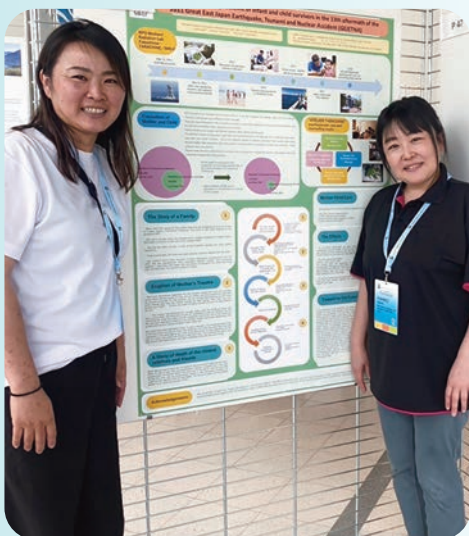
北海道旭川市子育て支援部 内海 千枝



核の最終処分場「オンカロ」を視察して

WAIMH大会前に首都ヘルシンキから約250キロ離れたフィンランド政府が主導する「オンカロ」視察へ行った。ここは、人が防護なしに近づけば10数秒で死に至る高レベル放射性廃棄物を、地下400メートル超に10万年にわたって保管する施設だ。車窓からの景色に、数億年前からの岩盤の国であることを実感しながら隣町のラウマまで移動。ラウマからオンカロまでは、のどかな小麦畑が広がっていた。

受付でパスポートを預け、IDカードと交換。幾つものセキュリティを抜け、EUで最も高速の窓のないエレベーターで433メートルの地下へ。普通のエレベーターと変わらない感覚だった。坑道内は乾燥した空気と酸素ダクトがむき出しで、横杭の錆びや、地下水で濡れている場所が多々あった。舐めてみるとしょっぱいので、塩分を含んでいるようだ。地下水により使用できない場所もあったが、調査対象として保存されており、溜まった地下水を目視できた。福島でもこの地下水が問題となっている。氷河期も考慮にいれ、完璧な施設と自信を持って説明してくれたが、そこには自然を思い通りにすることは出来ない現実があった。



タンペレ大会のポスター発表前で



地下450メートルの最終処分場トンネル前にて

短い滞在時間の中で、重苦しい空気と息苦しさを感じた。現場ですれ違った労働者は、青白く覇気が感じられなかった。ただ、地元では最大の雇用の場で、お金のために、この職を選んだという若者もいた。

フィンランドは、高濃度放射性廃棄物の行末を今の世代で解決する道筋をつけようとしているが、それは次世代からまた次の世代へと、引き継がれ、結局、解決したことにはならない。福島第一原発の事故処理でも巨額の費用や人員を要し、事故当時、未成年だった子、またその子へと引き継がれていく。後始末のために子どもの自由な未来が搾取され、大人が作ってしまった負の遺産を背負う姿があるように感じた。そこには世代を超えた人々が向き合わなければならない、私たちにできることは何なのか？ フィンランドの地でも考えさせられた。

認定NPO法人 いわき放射線市民測定たらちね
矢吹 優美子

WAIMH2024フィンランドタンペレ大会に参加して

25年ぶりのタンペレは、高層ビルが目新しく、タンペレホールの正面入り口はなんとムーミン美術館になっていました。ツアーでの参加でしたので開催前にガイドさんと一緒にタンペレの街を散策することができ(元保健師の私は人々の生活している様子を知るための地区踏査は大切にしています)フィンランドとタンペレの風土を感じながら学会を楽しむことができました。



写真1

タンペレの街で印象的だったことをいくつか紹介します。まず、タンペレ中心にある時計塔の時計は「長針」がありません(写真1)。そのくらいタンペレ市民はゆったりと時間を過ごしているということでした。また、駅構内、道路、公園で目にしたベビーカーを押しているのはほぼ100%の確率で体格の良いパパさんでした。夏休み時期であったことも関係しているのかもしれませんが、お子さんを抱っこしているパパさんも目立ちました。車は少なく歩いている方多い(歩きタバコが許可されていることには驚きましたが)ことやレンタル電動キックボードがあちこちに置かれSDGsな日常にも感心させられました。また、アルコール販売はABV(アルコール度数)5.5%を基準に販売するお店と時間が法律で制限されていました。ワインを探してスーパーマーケットをうろろしましたが見つからず、隣接するアルコ(酒屋)でワイン(ABV12%)を購入することができました。ちなみにフィンランドの酒類を含む嗜好品の消費税は24%、1€は学会開催時点では174円(高い!)でした。

さて、学会初日はタンペレ大学のカイヤ・プーラ先生から主要テーマ「ムーミン谷からの発見」ではじまりました。いじめられて他者の目から姿が見えなくなってしまったニンニを一家が受け入れママムーミンのケア(お食事や秘伝の薬やかわいらし

いお洋服を作って着せてあげるなど)によってニンニは姿が見えるように、ケアすることによって実はママムーミンも癒されていたというムーミン谷からの「助け合い」や「わかちあい」によって「レジリエント:逆境から立ち上がる力を持つ」に心動かされました。ムーミン美術館を学会前に鑑賞していたのでそれなりに理解したつもりでしたが、2日目の早朝国際委員会が立ち上げてくださったLINE「タンペレ」に解説入り「ムーミン谷からの発見」が共有され理解が深まりました。英語にご堪能なメンバーAさんに改めまして感謝申し上げます。このように今回はじめてJAIMH国際委員会手配のツアーで参加し「助け合い」や「わかちあい」を実感しました。15名のメンバーが、事前に国際委員会設定のZoom打ち合わせ2回(2回目はJAIMH渡辺久子会長も参加してくださいました)で、ポスターの筒を機内持ち込みにするか否かなど細かい話し合いをしていましたので、出発日の羽田ではすっかり顔なじみグループで飛行機に搭乗しました。学会開催中はもちろん、帰国時のヘルシンキの空港での自動チェックインや出国審査でも仲間に助けられて無事帰国することができました。改めまして今回の仲間とJAIMH国際委員会の皆様に感謝申し上げます。

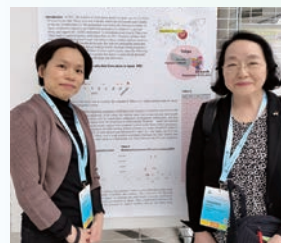


写真2

写真2は共同研究者の北田准教授とのツーショットです。日本では母子健康手帳未交付や妊婦健診未受診者がまだ見受けられ、出産医療機関と行政が連携することで、すべての親子の切れ目ない・誰も取り残さない支援の実現を目指して研究しています。次回WAIMHトロント大会(人種や文化のモザイクの街)の参加も目指したいと思っています。

三育学院大学大学院 齋藤 泰子

離婚後親権に 共同親権を加えた 民法改正について

兵庫県弁護士会 長谷川 京子

父母の離婚後の子どもの親権を、現行の単独に加え、共同親権にすることもできるとする民法改正が、今年5月成立しました。公布後2年以内に施行されることになっています。この法改正については、関係が破綻して離婚を選択した父母に、離婚後の子どもの親権を父母の共同親権とする選択肢を開いたことに伴い、子どもを挟んだ父母の争いやDV虐待が継続激化して、子どもと同居親の福祉が損なわれることが懸念されます。特に以下のポイントに注意を要します。

1) 子連れ別居に対するハードル—離婚の前後を通じ、子どもの居所は、原則、共同親権者の協議事項とされました。しかしDV虐待(身体暴力に限らず)からの避難や、子どもの利益のため裁判所の指定を待てない事情があるときは非加害親の判断での子連れ別居は適法です。

2) 離婚後の親権につき父母の協議で定まらないとき及び過去に離婚したケースで親権者を変更する場合は裁判所が双方の共同親権にするか一方を単独親権者に定めることができます。その際、子どもへの虐待やDVの恐れがあって親権の共同行使が困難となる場合には必ず単独親権者を定めることになっています。

3) 監護者の指定—父母が共同親権者でも別居し、子どもはどちらかの親と暮らすので同居して世話する親を監護者と定めるべきです。「監護の分掌」として交替住居も可能になりましたが、子どものQOLからは慎重な考慮が必要です。父母の力関係は対等ではないうえ、DV虐待など有害な親の関わりは外部から見えにくいものです。子どもの福祉の観点から第三者である支援者の助言と証言は重要な価値を持ちます。有害な共同親権を防ぐ支援をお願いします。



APA2024 大会発表報告

APA2024(2024年米国心理学会大会、シアトル 8月8日開催)の「災害シンポジウム」で、東日本大震災後から今に至る福島におけるJAIMHの活動を報告しました。演題は「自然災害・人災の子どもへの影響:子ども中心地域文化アプローチにより福島に‘ニューノーマル’を創り出す」。他のシンポジストはWAIMH名誉会長Jオソフスキー、米国の子ども防災教育を率いるJ.ヴォーゲルとP.ダミコ教授。

震災直後福島県郡山では、子どもケアプロジェクトを率いる菊池信太郎小児科医が運動学に基づく東北最大屋内遊び場PEPKIDS郡山を建設し、今春来訪者全数は300万

人を越えました。一方いわきでは、子育て中の母親が、おびえることなく放射能を測定し、地域汚染の可視化により子どもを守ろうと「いわき市民放射能測定室たらちね」をたちあげました。今日海洋調査を含む広範な放射能測定データを発信し、世界唯一のクリニックを併設する民間測定機関に発展しています。人類は危機に面すると地域の大人が親心を結集し次世代を守ってきました。東日本大震災後の福島のJAIMH会員の活動は、必ずしも目に見える結果のない苦しみの中で、内省と科学的実証を黙々と積み重ねる営みですが、今後の世界の防災のあり方に示唆を与えるものです。

渡邊 久子

2024年度通常総会報告

2024年6月30日(日) 13:00～14:30
開催形式：WEB開催 学会会員数：277名
(総会出席数 161名、委任状 134名)
司会：大場 エミ 議長：渡邊 久子(代表理事)

1. 協議事項

第1号議案 2023年度事業報告

大場エミ事務局長より2023年度事業報告があり、賛成が委任状と合わせて総会出席者の半数を超えたため、可決となった。

第2号議案 2023年度会計報告

郡山事務局の菊池信太郎より2023年度会計報告があり、併せて小笠原めぐみ監事より監査結果について報告があった。賛成が委任状と合わせて総会出席者の半数を超えたため、可決となった。

第3号議案 2024年度事業計画(案)

大場エミ事務局長より2024年度事業計画案について説明があり、賛成が委任状と合わせて総会出席者の半数を超えたため、可決となった。

第4号議案 2024年度予算(案)

大場エミ事務局長より2024年度予算案について説明があり、賛成が委任状と合わせて総会出席者の半数を超えたため、可決となった。

第5号議案 定款の変更(案)

大場エミ事務局長より、事務局移転に伴う定款第2

条変更案が提案されたが、定款変更にあたっては定款45条にて「社員総会において、総社員の半数以上の出席があり、総社員の議決権の3分の2以上の賛成をもって可決することにより変更することができる」となっており、184名の賛成が必要であるがその人数に至っていなかったため可決しなかった。

第6号議案 2024年度理事選任について

22人の理事候補者が総会出席者の半数を超えたため、承認された。

2. 報告事項

◇2024年度第4回学術集会について(浜松大会)

犬飼和久大会長より2024年10月12、13日浜にて開催との説明があった。

◇WIMHタンペレ大会報告

大会に参加した内海千枝・新城正紀理事から報告があった。

◇2024年度研修計画について

大場エミ事務局長より報告があった。

2024年度臨時総会報告

2024年8月4日(日) 19:30～20:30
開催形式：WEB開催 学会会員数：277名
(総会出席数 208名、委任状 181名)
司会：大場 エミ 議長：渡邊 久子(代表理事)

6月30日に開催した総会にて第5号議案定款変更が出席人数不足により可決されなかったことを受けて開催した。

1. 協議事項

第1号議案 定款の変更について

定款第2条 当法人は、主たる事務局を福島県郡山に置く

変更 当法人は、主たる事務局を神奈川県横浜市に置く

定款変更には、定款45条にて「社員総会において、総社員の半数以上の出席があり、総社員の議決権の3分の2以上の賛成をもって可決することにより変更することができる」となっており、195名の賛成を得られ可決された。

2. 報告事項

◇2024年度研修計画について

大場エミ事務局長より進捗状況について報告があった。

◇2024年度第4回学術集会について(浜松大会)

犬飼和久大会長より2024年10月12、13日浜松大会開催の進捗状況について説明があった。

●事務所が移転しました。今後のご連絡は以下をお願いします。

日本乳幼児精神保健学会 事務局

〒231-0063 神奈川県横浜市中区花咲町 1-4 ベルメゾン桜木 412 (ゆりかご訪問看護ステーション内)

一般社団法人 日本乳幼児精神保健学会事務局

TEL 045-341-0025 FAX 045-341-0365 E-mail jimukyoku@jaimh.org

世界乳幼児精神保健学会 日本支部



会費のお振込みは下記の口座をお願いします

みずほ銀行(金融機関コード:0001) 新横浜支店(店番号:356)

普通預金 3055110 一般社団法人日本乳幼児精神保健学会